令和３年度大学院入学試験問題（所要時間６０分）

博士後期課程　仏教学専攻　宗学コース　C 一般（長期履修含む）・留学生

受験番号		氏名		科目	専門	評点	

一、別紙の設問資料をもとに、次の問に答えなさい。

（１）資料の遺文名、執筆年月日、執筆地を記しなさい。

（２）資料のＡ「　」の箇所を漢文で記し、訓点を付しなさい。

（３）資料のＡ「　」の箇所を中心に、教学的内容を解説しなさい。

二、次の中から一つを選び解説しなさい。

（１）白蓮阿闍梨日興　（２）慶林坊日隆　（３）仏性院日興　（４）優陀那院日輝

A

B

令和３年度大学院入学試験問題（所要時間６０分）

博士後期課程　仏教学専攻　宗学コース　C 社会人(長期履修含む)

受験番号		氏名		科目	専門	評点	

一、次の日蓮聖人遺文に関して、後の問に答えなさい。

迹門方便品は一念三千・二乗作佛を說て爾前二種の失一を脫たり。しかりといえどもいまだ發迹顯本せざれば、まことの一念三千もあらはれず、二乘作佛も定まらず。水中の月を見るがごとし。根なし草の波上に浮るにたり。本門にいたりて、始成正覺をやぶれば、四教の果をやぶる。四教の果をやぶれば、四教の因をやぶれぬ。爾前迹門の十界の因果を打やぶて、本門十界の因果をとき顯す。此、即本因本果の法門なり。九界も無始の佛界に具し、佛界も無始の九界に備て、裏十界互具・百界千如・一念三千なるべし。

（１）遺文名、執筆年月、執筆地を記しなさい。

（２）日蓮聖人教学の特色を踏まえて、その内容を解説しなさい。

二、次の中から一つを選び解説しなさい。

（１）白蓮阿闍梨日興　（２）慶林坊日隆　（３）仏性院日興　（４）優陀那院日輝

令和３年度大学院入学試験問題（所要時間６０分）

博士後期課程　仏教学専攻　仏教学コース　C 一般（長期履修含む）・留学生

受験番号		氏名		科目	専門 ①サンスクリット語（梵語）	評点	

解答用紙

【辞書使用可】

問題１　下線部 (2) (7) (8) (9) (11) の各語の、語幹、格・数・性、意味を記しなさい。（略号を用いてよい。）（配点：5×5＝ 25 点）

解答例： nadīnām → nadī-, G. pl. f.（または「女性・複数・属格」）「諸河川の」

(2) puruṣasya

(7) mahāyānāni

(8) ukte

(9) bhagavān

(11) Śāriputra

問題２　下線部 (3) (5) (10) (12) の動詞の、語根、法・時制、人称・数・態、意味を記しなさい。
準動詞の場合は、語根、準動詞の種別、意味を記しなさい。（略号を用いてよい）。（配点：10×4＝ 40 点）

解答例： nayasi → √nī-, Indic. Pres. 2. sg. P.（または「直説法・現在時制、二人称・単数・パラスマイパダ」）「（君が）導く」

(3) bhavet

(5) kṛtvā

(10) avocat

(12) vadasi

問題３　下線部 (1) (4) (6) は、それぞれ語末の音が連声（sandhi）による音変化を起こしたものである。
連声を起こしていない形に直しなさい。（配点：5＋5＋10＝ 15 点）

解答例：(yady api となっているとき →) yadi api

(1) anenāpi

(4) astīti

(6) ślāghamānenaikavarṇānyekayānāni

問題４　問題文の要旨を述べなさい。（配点： 20 点）

令和３年度大学院入学試験問題（所要時間６０分）

博士後期課程　仏教学専攻　仏教学コース　Ｃ一般（長期履修含む）・留学生

受験番号		氏名		科目	専門 ①サンスクリット語（梵語）	評点	

【辞書使用可】

次の文章は『法華経』(*Saddharmapuṇḍarīka-sūtra*) 譬喩品 (Aupamya-parivarta) 中の一節である。
文章を読んで設問に答えなさい。（提出用の解答用紙は別紙。なお、連声により音が変化している場合があるので注意すること。）

anenāpi (1) bhagavan paryāyeṇa tasya puruṣasya (2) na mṛṣāvādo bhavet (3) /
kaḥ punar vādo yat tena puruṣeṇa prabhūtakośakoṣṭhāgāram astīti (4) kṛtvā (5)
putrapriyatām eva manyamānena ślāghamānenaikavarṇānyekayānāni (6) dattāni
yad uta mahāyānāni (7) / nâsti bhagavaṃs tasya puruṣasya mṛṣāvādaḥ //
evam ukte (8) bhagavān (9) āyuṣmantaṃ Śāriputram etad avocat (10) /
sādhu sādhu Śāriputra (11) / evam etac Chāriputra / evam etad yathā vadasi (12) /

問題１　下線部 (2) (7) (8) (9) (11) の各語の、語幹、格・数・性、意味を記しなさい。（略号を用いてよい。）（配点：5×5＝ 25 点）
解答例： nadīnām → nadī-, G. pl. f.（または「女性・複数・属格」）「諸河川の」

問題２　下線部 (3) (5) (10) (12) の動詞の、語根、法・時制、人称・数・態、意味を記しなさい。
準動詞の場合は、語根、準動詞の種別、意味を記しなさい。（略号を用いてよい）。（配点：10×4＝ 40 点）
解答例： nayasi → √nī-, Indic. Pres. 2. sg. P.（または「直説法・現在時制、二人称・単数・パラスマイパダ」）「（君が）導く」

問題３　下線部 (1) (4) (6) は、それぞれ連声 (sandhi) による音変化を起こしたものである。
連声を起こしていない形に直しなさい。（配点：5＋10＋5＝ 15 点）
解答例：(yady api となっているとき →) yadi api

問題４　問題文の要旨を述べなさい。（配点： 20 点）

令和３年度大学院入学試験問題（所要時間６０分）

博士後期課程　仏教学専攻仏教学コースＣ 一般(長期履修含む)・留学生

受験番号		氏名		科目	専門 ②漢文	評点	

問題　次のＡ～Ｄは『梁高僧伝』所収の曇無讖伝およびその付伝の数節である。これを読み、下記の問１～問５に答えなさい。（圏点は『大正新脩大蔵経』による。また一部、文字を改めたところがある。）

Ａ　曇無讖。或云曇摩讖。或云曇無讖。蓋取梵音不同也。其本中天竺人。〔…中略…〕王悅其道術深加優寵。頃之王意稍歇待之漸薄。讖以久處致厭。乃辭往罽賓。齎大涅槃前分十卷并菩薩戒經菩薩戒本等。彼國多學小乘不信涅槃。乃東適龜茲。(あ) 頃之復進到姑臧止於傳舍。慮失經本枕之而寢。有人牽之在地。讖驚覺謂是盜者。如此三夕。聞空中語曰。此如來解脫之藏。何以枕之。讖乃慚悟別置高處。夜有盜之者。數過提舉。竟不能勝。明旦讖將經去不以為重。盜者見之。謂是聖人。悉來拜謝。

Ｂ　河西王沮渠蒙遜僭據涼土。自稱為王。聞讖名呼與相見。接待甚厚。蒙遜素奉大法志在弘通。欲請出經本。讖以未參土言又無傳譯。恐言舛於理不許即翻。於是學語三年方譯寫初分十卷。時沙門慧嵩道朗獨步河西。值其宣出經藏。深相推重。轉易梵文嵩公筆受。道俗數百人疑難縱横。讖臨機釋滯清辯若流。兼富於文藻辭製華密。嵩朗等更請廣出諸經。次譯大集大雲悲華地持優婆塞戒金光明海龍王菩薩戒本等六十餘萬言。讖以涅槃經本品數未足。還外國究尋。值其母亡遂留歲餘。後於于闐更得經本中分。復還姑臧譯之。後又遣使于闐尋得後分。於是續譯為三十三卷。以偽玄始三年初就翻譯。至玄始十年十月二十三日三寢方竟。即宋武永初二年也。讖云。此經梵本本三萬五千偈。於此方減百萬言。今所出者止一萬餘偈。讖嘗告蒙遜云。有鬼入聚落必多災疫。遜不信。欲躬見為驗。讖即以術加遜。遜見而駭怖。讖曰。宜潔誠齋戒神呪驅之。乃讀呪三日。謂遜曰。鬼已去矣。時境首有見鬼者云。見數百疫鬼奔驟而逝。境内獲安讖之力也。遜益加敬事。至遜偽承玄二年。蒙遜濟河伐乞伏暮末於抱罕。以世子興國為前驅。為末軍所敗。興國擒焉。後乞伏失守。暮末與興國俱獲於赫連定定。後為吐谷渾所破。興國遂為亂兵所殺。(い) 遜大怒謂事佛無應。即遣斥沙門五十已下皆令罷道。蒙遜先為母造丈六石像。像遂泣涕流淚。讖又格言致諫。遜乃改心而悔焉。

Ｃ　時魏虜託跋燾聞讖有道術。遣使迎請。且告遜曰。若不遣讖便即加兵。遜既事讖日久未忍聽去。〔…中略…〕遜既啓讖不遣。又迫魏之強。至遜義和三年三月。讖固請西行更尋涅槃後分。遜忿其欲去。乃密圖害讖。偽以資糧發遣。厚贈寶貨。臨發之日。讖乃流涕告衆曰。讖業對將至。衆聖不能救矣。以本有心誓義不容停。比發遜果遣刺客。於路害之。春秋四十九。是歲宋元嘉十年也。黑白遠近咸共惜焉。既而遜左右常白日見鬼神以劍擊遜。至四月遜寢疾而亡。

Ｄ　讖所出諸經。至元嘉中方傳建業。道場慧觀法師志欲重尋涅槃後分。乃啟宋太祖資給遣沙門道普將書吏十人西行尋經。至長廣郡舶破傷足因疾而卒。普臨終歎曰。涅槃後分與宋地無緣矣。普本高昌人。經遊西域遍歷諸國。供養尊影頂戴佛鉢。四塔道樹足跡形像。無不瞻覲。善梵書備諸國語遊履異域。別有大傳。

問１　下線部（あ）を書き下し文にしなさい。

問２　下線部（い）は中国仏教史上の初期における仏教弾圧事件として知られる。これ以外の、10世紀以前の中国における仏教弾圧事件について、特徴をとらえて説明しなさい。

問３　Ｂの全文を現代日本語文にしなさい。

問４　Ｃの大意を記述しなさい。

問５　大乘涅槃経が漢訳された経緯と、その際に現れた教学の展開について説明しなさい。

【以下、解答欄。問の番号を付して記載すること。裏面も使用可。用紙が不足する場合は申し出ること。】

令和３年度大学院入学試験問題（所要時間６０分）

博士後期課程　仏教学専攻　仏教学コース C 一般（長期履修含む）・留学生

受験番号		氏名		科目	専門 ③仏教史・仏教文化	評点	

③以下の事項 a.～g.のうち二つを選択し、必要な解説を記しなさい。

a. インドにおける仏像の成立　b. 龍門石窟賓陽南洞の再興と奉先寺洞　c. 朝鮮半島における半跏思惟像

d. 両界曼荼羅　e. 唐三彩　f. 平安初期彫刻における木彫の成立　g. 康慶と南都復興

令和３年度大学院入学試験問題（所要時間６０分）

博士後期課程　仏教学専攻　仏教学コース　Ｃ 社会人（長期履修含む）

受験番号		氏名		科目	専　門	評点	

【設問】　下記の①～⑤の言葉から二つを選び、各々400字程度で解説しなさい。
① 根本分裂、②「七仏通戒偈」、③説一切有部の思想、　④空の思想と在家仏教
⑤華厳経の思想、　⑥大乗涅槃経の思想

令和３年度大学院入学試験問題（所要時間６０分）

博士後期課程　仏教学専攻　C 一般（長期履修含む）・留学生

受験番号		氏名		科目	英語	評点	

【辞書使用可、電子辞書も可】

〔問題〕 下記の英文を和訳しなさい。

The Eightfold Path is known as the 'middle way' because it steers a course between a life of indulgence and one of harsh austerity.
It consists of eight factors divided into the three categories of Morality, Meditation, and Wisdom.
These define the parameters of human good and indicate where the scope for human flourishing lies.
In the division known as Morality (*sīla*), the moral virtues are perfected, and in the division known as Wisdom (*paññā*), the intellectual virtues are developed.
Although the Path consists of eight factors, they should not be thought of as stages which are passed through on the way to nirvana then left behind.
Instead, the eight factors exemplify the ways in which Morality, Meditation, and Wisdom are to be cultivated on a continuing basis.
Right View means first, the acceptance of Buddhist teachings and later their experiential confirmation.
Right Resolve means making a serious commitment to developing right attitudes.
Right Speech means telling the truth and speaking in a thoughtful and sensitive way.
Right Action means abstaining from wrongful bodily behaviour such as killing, stealing, or behaving wrongfully with respect to sensual pleasures.
Right Livelihood means not engaging in an occupation which causes harm to others.
Right Effort means gaining control of one's thoughts and cultivating positive states of mind.
Right Mindfulness means cultivating constant awareness,
and ***Right Meditation*** means developing deep levels of mental calm through various techniques which concentrate the mind and integrate the personality.

(出典：Damien Keown, *Buddhism: A Very Short Introduction*, Oxford University Press, Oxford, 1996, pp.54-55.)